

○第10回研修会（オンライン開催）

今回の研修は、今年度のまとめと来年度の方針について提案がありました。今年度のまとめについて、一部抜粋して掲載しております。詳しくは令和4年度の研究紀要をご覧ください。

本年度の重点課題に対する 自己評価・成果と課題について

○成果 ●課題

【令和4年度研究主題】

J S L 児童生徒の多様性・複雑性に応じた体系的な日本語指導や適応指導の工夫、及び日本語指導戦システムの適切な運用の在り方の研修

- 新1年生の日本語指導が必要な児童に対しては、入学前に面談をしていただくことで、入学後すぐに日本語指導を開始することができた。中学校も比較的編入はスムーズに行われている。
- 授業研究を通して、自分自身も指導案の書き方や教材について追求することができた。また、先生方の指導や実践報告を通して、今後の指導にも活かすヒントを得ることができた。対面で行うことができてよかった。
- 配置校における指導体制については、個々に応じた指導ができた。また、本校職員の対象児童に対する指導力も向上してきた。
- 母国でも、算数の未習分野の多い児童に対して、宿題や補充の学習で補いながら、四則計算から積み上げて在籍学級での学習が理解できるように支援した。
- タブレットが普及し、コロナ禍のオンライン授業に対応できるような指導ができるようになった。
- 指導案集を作成することで今後の指導の助けとなる。年間を通して行われた授業づくりの研修は、それぞれの児童生徒に応じた様々な取り組みを共有できる素晴らしい取り組みだったと思う。
- 児童生徒の多様性や複雑性への対応を意識して適応指導の研修を企画することができてよかった。
- 適応指導に関しては保護者、担任、管理職との日ごろからの密な情報共有により体制ができてきた。
- タブレットが普及し、コロナ禍のオンライン授業に対応できるような指導ができるようになった。
- 低学年の対象児童へのオンライン授業のやりにくさや効果に満足いくものが得られず困った。
- 日常の適応指導で悩むことがある。他校に電話で相談したが、困ったときの事例を集めて「このようときどうする」という研修をしたい。
- 転入および編入児童・保護者の日本語指導に関する希望や目的が様々で、日本語の指導の必要性の是非や、日本語指導に期待するものの具体的な内容をきちんと見極め、適切な助言や計画が必要であると思う。
- 高校受験に関する最新の情報などを中学校の先生と共有できたらいいと思う。具体的なアイデアに加え、柔軟で適切な指導、および保護者への理解と協力も必要である。